

田原道

たわらみち

古老柿発祥伝説

田原道～古老柿発祥伝説

このコースは古代から山城と近江を結ぶ「田原道」が通っていた岩山～禅定寺地区を歩き、禅定寺や猿丸神社など、宇治田原を代表する名所を巡ります。

宇治田原屈指の古刹として藤原文化の栄華を今に伝える禅定寺には、特産品「古老柿」の発祥伝説にまつわる美女石があります。

百人一首の「奥山に紅葉踏み分け～」の歌の作者とされる猿丸大夫をまつる猿丸神社は「こぶとりの神様」として広く崇敬を集めています。

古代から人々が往来した田原道は近年大津市で遺構が発見され、一定の規模を持つ道として整備されたものであることが明らかとなり、宇治田原でも周辺地区には古代からの遺跡が多数残されています。

コース始点には案内板、道中には道標を設置し、町HPにコースガイドを掲載しています。

なお、このルートは古代田原道を忠実にたどるものではありません。

全行程：約9km（維中前～猿丸神社往復）
所要時間：約5時間（見学・休憩含む）
高低差：約115m
消費カロリー：約756kcal(体重60kgの人が平地を歩いた計算)
交通アクセス：

JR奈良線「宇治」、京阪「宇治」、近鉄「新田辺」から京阪宇治バス「維中前」「工業団地」「緑苑坂」行に乗車
最寄りバス停「維中前」「岩山」「長山口」
自動車の場合は京滋バイパス「南郷」「笠取」ICから又は国道307号から岩山バイパス經由府道大石東線へ

古代の官道 田原道

古代から、都と各地を結ぶ官道が整備され、「田原道」もそのひとつでした。

現在の城陽市青谷から宇治田原に入り、禅定寺地区を経て滋賀県大津市の瀬田に至ったと考えられ、「東山道」の一部であったともいわれます。平成19年には大津市の関津遺跡で幅15mの道路遺構が見つかり田原道は簡易な山道ではなく、ある程度の規模を持った街道であったと考えられます。

田原道はしばしば歴史上重要な事件の舞台となり、天平宝字8(764)年、反乱の企てが露呈した恵美押勝(藤原仲麻呂)は、一族を伴って宇治道で近江に逃れようとしたが、田原道を先回りした孝謙上皇方に勢多橋を焼かれたため、戦意を喪失しました。

下って鎌倉時代、北条執権の打倒を計った後鳥羽上皇に対し、幕府軍の一隊は田原道から宇治に入り、都で上皇軍を破りました(承久の乱)。

町内では荒木～岩山～禅定寺にかけて古代から中世の遺跡が集中し、府県境の丘陵地「禅定寺峠」には関所跡があったとされるなど、古代の重要幹線路の存在を示唆しています。

古老柿と美女石



古老柿



美女石

宇治田原の特産古老柿は、柿を「柿屋」の棚に並べて干す独特の製法を用いますが、禅定寺には古老柿の発祥に関する伝承が残されています。

むかし、どこからともなく現れて甘美な干し柿を売る娘が村人の求めに応じてその製法を伝授し、禅定寺近くの谷奥の岩で、観音の姿を現しました。その娘は禅定寺の十一面観音の化身であり、以来、独りの娘が教えた干し柿を「孤娘柿」と呼ぶようになりました。娘が正体を現した石は「美女石(びじょせき)」と呼ばれ、乙女観音がまつられています(見学は禅定寺で申し込みを)。

岩山



巖松院



岩本城跡

岩山地区は「岩本」「長山(おとのやま)」村が合併したもので、東西の信楽街道と南北の田原道が分岐する交通の要所でした。

街道に面した山裾には奈良時代の谷出窯跡群をはじめ、巖松院、正覚寺、真言院や雙栗(さぐり)天神社、戦国時代の岩本城跡など多数の寺社や文化財が点在します。(巖松院：0774-88-3765)

三十六歌仙 猿丸大夫



猿丸神社本殿



猿丸大夫古蹟

猿丸大夫は百人一首に収録された「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声きくときぞ秋はかなしき」の作者とされ、今「こぶとりの神様」として広く崇敬されています。猿丸神社には正保2(1645)年の猿丸大夫を描いた絵馬が残され、毎月13日の月次祭のときは境内前で地元特産品を販売する「猿丸市」が催されます。

(猿丸神社：0774-88-3782)

禅定寺



禅定寺



建藤神社

町内随一の古刹・禅定寺は東大寺の別当平崇によって正暦2(991)年に開かれ、藤原氏の庇護により栄えましたが、中世以降衰退し、延宝8(1680)年に加賀の月舟により曹洞宗寺院として再興されました。現在も木造十一面観音をはじめ平安時代の仏像や禅定寺文書等の重要文化財、町指定文化財を多数所蔵します。また、境内から古老柿発祥伝説の舞台「美女石」を訪れることができます。

この地区は他にも建藤神社等の名所があります。(禅定寺：0774-88-4450)



禅定寺